



上場企業の不適切会計が相次いでいる。東芝は第三者委員会が本格調査中で2015年3月期の決算作業が大幅に遅れている。8日にはLIXILグループが過年度決算の訂正を発表した。問題が起きる背景や影響などをまとめた。

Q 不適切会計には、どんなものがあるか。

A 東京商工リサーチの調べによると、14年度に不適切会計を開示した

東芝・LIXIL…相次ぐ不適切会計

上場企業は42社に上つた。新年度も東芝やLIXILは表面化して

投資家への影響は大きい

社名 内容

2004年	西武鉄道 上場廃止	株式保有状況を偽って記載
06年	カネボウ 上場廃止	債務超過を「資産超過」と偽る
07年	日興コーディアル 課徴金5億円	子会社のM&Aで利益を水増し
11年	IHI 課徴金 15億9457万円	工事費用を過少計上し赤字隠し
12年	オリンパス 課徴金 1億9181万円	財テク損失を簿外で不正処理
15年	OKI 課徴金 1680万円	海外子会社が売り上げ過大計上
	東芝 LIXILグループ	インフラ工事の原価を過少見積り 買収先の海外子会社が不正決算

目立つ「子会社」「在庫評価」

「不適切」の厳密な定義はなく、単純な集計ミスから水増し計上、在庫操作など意図的なものまで幅広く含まれる。目立つのは①子会社に関する案件②収益の見積もりや在庫評価にかかる案件

——などだ。海外子会社が破産手続き中のLIXILは①に当たる。

Q 東芝は何が問題になっているのか。

A 電力メーターや自動料金收受システム(ETC)といったインフラ関連を中心に、過去の利

益を減額修正する見通しだ。長期の案件などは「工事進行基準」を使って会計処理する。進捗に応じてコストの変動を適切に反映させなければならぬが、管理が粗ざんだった。一橋大学の加賀谷哲之准教授は「コストや工事の進捗率の管理は外部から見えにくい。費用の計上方法など厳格な内部ルールに基づいて運用すべきだ」と話す。

東芝は半導体の在庫の評価が妥当だったかも調べられており、②に該当する。昨年10月に問題が発覚したオカモトは静岡工場で在庫の資産価値を過大に計上していた。進行基準

によって、(2)に該当する。銘柄」に指定され、課徴金納付を命じられた。オリンパスは多数の株主から損害賠償請求の訴訟も起つされた。

も在庫評価も企業の主觀や恣意性に左右されやすい点で共通する。

A 株主状況を偽って公表していた旧西武鉄道や粉飾決算のカネボウのように、悪質性が高く資本市場への影響が大きい場合は上場廃止になる。

Q 罰則や処分は、